

## 「地理歴史（世界史）」の出題の意図

### 第 1 問

第 1 問は、近代における重要な大陸国家であるオーストリア＝ハンガリー帝国、オスマン帝国、ロシア帝国、清を取り上げ、その共通点と相違点を踏まえながら、これらの諸国が 20 世紀後半に経験した変容と再編を考察することを通して、広域・多民族を統治する国家の構造的な特徴とその歴史的展開について考えさせる問題です。問(1)では、支配領域や民族別人口構成の面に着目して、4 つの大陸国家がどのような変容・再編を経験したかを、2 つの類型に分けて記述することを求めています。これらはいずれも、多民族を統治していたため国家統合に困難を抱えていましたが、体制が危機に直面したとき、帝国が解体した場合としなかった場合、また、それまで支配的立場にあった民族を中心とする国民国家を形成した場合と政体を変えながらも多民族国家を維持した場合という、2 つの軸で命運が分かれました。ここに挙げた 4 つの語句を手がかりにしながら、類型を整理して論述してほしいと思います。問(2)では、大陸国家の変容に際し、国際社会において新たに提唱された原則、すなわち民族自決がどのように適用されたかを、4 つの語句を手がかりにしながら、具体例を挙げて記述することを求めています。ヨーロッパとアジアでの適用の差異に目を向けてほしいと思います。これらの大陸国家の統合と解体、変容と再編をめぐる問題は、今日の世界情勢や国家体制にまで大きな影響を残しています。史実の的確な理解とともに、大きな視野で論理的に思考することを心がけてほしいと思います。

### 第 2 問

第 2 問は、外交に関係する諸資料を読解・分析して、外交の様々な側面についての問いに答える問題です。問(1)は、前近代南アジア・東南アジアの王朝間の外交に関する資料から、東南アジアにおける宗教・交易の展開という歴史的背景を読み取るものです。問(2)は、現代国家が外交の場として建設したモニュメントの画像から、その国家の対外政策および過去とのつながりを強調する意図を読み解くものです。問(3)は、外交文書から、冷戦期の外交的危機の展開を読み取り、また、危機の解消後も継続した対立関係について答えるものです。以上を通して、歴史上の外交にある、諸勢力間の関係にとどまらない複雑な側面について考え、理解してもらうことを意図して、出題しました。

### 第 3 問

第 3 問は、歴史のなかにおける都市の役割を考えるための史料や図表を用意し、10 個の問いを設けました。経済や文化の発展が、都市の発展と密接に関わっていることを理解して

いるかを問うています。

解答例

問(1) ウ

問(2) 北魏

問(3) 詞

問(4) アケメネス朝

問(5) メッカ

問(6) ドイツ騎士団 (ほか)

問(7) ラビン アラファト

問(8) マンチェスター

問(9) ロンドン万国博覧会

問(10) オーストラリア